



114
A1399



外国新聞抄譯

旧大藏大輔井上馨國內會計ノ事ヲ論シ
テ奏議シタル建白書一因テ内外ノ國民大
ニ狐疑ヲ生シ喋々トシテ止マス於是 政府
太政大臣三條實美ヲ以テ大藏省事務總
裁參議大隈重信ニ命シ此建議ヲ辨駁
スヘキ書ヲ作ラシメ其理論ヲ副テ十八
百歲入出見込會計表概算書ヲ滿天下ニ布告セ

天正十一年
大隈重信



り今我輩双方ノ論説ヲ考究シ之ヲ裁ス
ルモノ左ノ如シ

日本人ノ説ニ井上氏ノ計算ハ實況ニ適シ
人民ノ信用スルモノ最多シ然リト居氏斯
ノ如キ機密ヲ洩シテ内國ノ失措ヲ外國ニ
顯ハスハ彼カ所為ニ於テ遠慮ナレト謂フ
ヘシ若シ彼カレテ愛國ノ情篤カラニハ此
等ノ國辱ヲ外國ニ洩スル決シテ無カルヘシ

是固ニ當然ノ理ナリト此説實ニ我輩
親シク見聞スル東洋人ノ風習ニ符合セリ
又外國人ヨリ之ヲ見レハ大隈氏ノ報告元
計表ハ信スル所ナク至前日ノ建議ヲ辨駁
セシカ者メニ筆頭鼓舞シテ巧ニ著作セシ
モノト察セリ彼カ計表ヲ一見シテ許スル者ハ
固ニ筆頭ヨリ成ル所ノ計算仮令二千萬ノ
殘高ヲ出スモ亦容易ナルニ今僅ニ二三萬

ノ残トスルハ能ク其程合ヲ調理セシモノト
謂ハサルヲ得ス其情實ヲ擧ケレハ日本ノ
文書ニ信用スルニ足ラサルモノ固ニ之アリ
其故ハ政府毎々歳入高ノ大ニ相違セシ計
算ヲ公告スルヲ黙許シ竟ニ政府ノ負債并
國內ノ歳入出ハ計算上ニ於テ多クノ差違
算アリヨ自ラ也^此ヲ以テ論スルトキハ
彼令其計算ヲ巧ニ調理スルトモ其詳

明ヲ得ル固ニ難シ殊ニ百萬ノ數ニ登ル
計算ニ毛髮ノ一筋ヲ算スルカ如ク其然^計
ニ至リ最下位ノ錢厘モマテテ算加^ハ
實ニ抱腹ニ堪ヘサル所ナリ又表中合計萬
等ハ詳細ニシテ信^ハ立ヘキ所ナルニ然^フス
シテ偶詳細ニ掲ケタルモノハ皆妄誕ニシテ
更ニ取ル所ナシ
内國ノ租税ハ重ニ米穀ヲ以テ収入スル

カ故ニ政府宜ク其計算ニ於テ平均ノ價ヲ
載スヘシ然ルニ徒ニ井上氏ノ算スル米價
ヲ低價ナリトシテ之ヲ黜ケタリ果シテ然ラハ
諸雜賣リ差引キ昨年ノ米穀一石ニ付何程
ニ当ルヤ之ヲ告知スヘシ

内外国債ノ事ニ於テハ大隈流
暗ク向キテ其辨解ヲ為スヘシ
其辨解ハ彼自ラニ於テ亦之ヲ

74

知スル法ハサルモノアリシニ外
消センニハ華族ノ金銀ヲ減少セント欲
云ヘリ是固ニ政府災害ヲ自招
國內ノ血ヲ見ルニ必セリ又内
スルニ政府ヨリ人ニ貸渡シタル米金
以テ之ニ充ツルト云ヘリ然リトモ
内国人民ヨリ負フ所ノ債ヲ償フノ道
ナクシテ之カ為メ現今米國ニ於テ各種

公債證書ヲ製造セシト聞ク然ルキハ
 彼カ言實ニ不審ニアラスヤ之ニ加フルニ
 其論辯中政府窮迫ノ餘止ムヲ得ス
 發行シタル紙幣（年等）其金札等
 至ツテハ噸ル暖昧ヲ控メタリ此紙幣
 發行ノ總高ハ只推算スルノミニ一八
 五萬（千カ）圓トシ一人ニ倍スルハ云フ人
 之ニルル準備金アリト大隈氏云フトキハ

信用ヲ少シク取ルニ足ルヘシ然リル
其故ハ 廣國我等知隊スル所其所謂準備金ツル
 モノハ僅ニ二千萬ニ過キサルヘシ然レキハ
 紙幣ノ價位格別ニ下落セサルニ非ルヨリ
 ハ殆ント一億萬ニ達キ紙幣ニ充ツル事
 昔輩實ニ其策ヲ知ラス最モ大隈氏其
 辨償（明）ヲナスヲ約スルトモ氏恐ラクハ其約
 ヲ果スノ期ナカルヘシ殊ニ大隈氏ノ現在通用

セル紙幣ノ總高并今日大藏省ニ貯蓄スル
 五千万圓ノ紙幣ニ付電田其事ヲ記セサル
 實ニ疑團ヲ懷クヘキ事ニシテ今日民間ニ融通
 スル紙幣モ亦他國國債ト同様タリ
 斯クノ如ク有債アルトキ政府ノ瓦解スルカ
 或ハ政府ニ於テ一切更換ノ決議ニ出ルニ
 アラザルヨリ何レノ尽ク之ヲ更換セバ
 日本此負債ハ國債中最大ナルモノ

16 完

シテ決シテ計算上ニ漏スヘキモノニ非ス既ニ
 米國ニテは大藏卿其計表ニ(キリイニ) 米國
 ヲ記載セサルトキハ人民之ヲ何トカ言ハル
 其餘外國債ニ至リ五百五十万ト記載セ
 レハ大ナル違算ナリ此金額ハ最初其タ
 公債并其他利金等ヲ計出セシモノニシテ
 千八百七十三年中千二百五十万圓餘ヲ借入
 既ニ五百萬ハ日本大藏省ニ収入シ殘金ハ

或ハ

大 補 卷

追々積出し其手續ニ至ルヘシ然ルニキハ
 彼ノ言フ五百五十万ニ非スニテ外債ノ全
 額ハ千八百方田ニ至ルナリ依テ今大隈ノ
 計表其正否如何トナレハ實ニ正シクモ
 モノニシテ其辨論ノ信用ニ至ラハ茫乎トシテ
 虚空ヲ望ムカ如シ豈之ヲ以テ人民ノ信ヲ
 來スニ足ラニヤ云々